

第3号議案

平成26年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は、科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。

また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

平成26年度の科学研究補助金は、継続研究課題として8件8,200千円が内定しており、新規研究課題として、13件133,851千円を現在申請中で、審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究（B）一般

「出土木製品のマイクロ波加熱凍結乾燥法による保存処理の研究」
平成23～26年度 川本耕三 1,600千円

基盤研究（C）一般

「MRIを用いた水浸出土木材の内部性状の可視化に関する基礎的研究」
平成24～26年度 山田哲也 1,100千円

「東アジアにおける小札甲の受容と展開-日本古代の甲冑を中心として-」
平成24～26年度 塚本敏夫 1,200千円

「日本国内所在・台湾原住民族資料とその来歴の基礎的研究」
平成25～27年度 角南聡一郎 1,200千円

「アーカイブにおける短命資料の保存に関する研究」
平成25～27年度 金山正子 900千円

「古代アジアにおける組紐製作技法の発生と伝播に関する基礎研究」
平成25～27年度 小村真理 1,000千円

「出土櫛から見た古代東アジアにおける葬制の比較研究」
平成25～27年度 木澤直子 700千円

若手研究（B）

「平安期緑釉陶器の色彩学的研究」
平成25～27年度 田中由理 500千円

(2) 新規研究課題（計13件申請中）

新学術領域研究・研究領域提案型	1件
基盤研究（B）一般	4件
基盤研究（C）一般	5件
挑戦的萌芽研究	1件
若手研究（A）	1件
若手研究（B）	1件

2. 文化財の調査・整理事業

人文科学研究室

(公財)大和文化財保存会助成事業	奈良県内寺社所有の版木調査 (継続中)
総本山長谷寺 (奈良県桜井市)	長谷寺文化財調査整理事業 (継続中)
大阪府泉南市	泉南市文化財総合調査 (継続中)
大阪府高槻市	高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成事業
香川県	札所寺院の史跡指定に係る志度寺文化財詳細調査
香川県	札所寺院の史跡指定に係る甲山寺文化財詳細調査
香川県	札所寺院の史跡指定に係る本山寺文化財詳細調査
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る三角寺奥之院文化財詳細調査

(公財)大和文化財保存会の助成を受けて行っている奈良県内寺社所有の版木の調査は、平成 26 年度も継続の予定である。

受託事業として継続している長谷寺の什宝類文化財調査は、平成 26 年度も引き続いて実施する予定である。

大阪府泉南市の文化財総合調査は 10 年度目を予定し、高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成事業は 2 年度目となる。

同様に四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、香川県では志度寺が 2 年度目の調査を予定し、新たに本山寺と甲山寺の調査を予定している。甲山寺調査は 2 年度の予定である。

愛媛県では三角寺奥之院の調査を予定し、2 年度目の調査である。

考古学研究室

香川県善通寺市	旧練兵場遺跡発掘調査遺物整理及び報告書作成事業
香川県丸亀市	城下町遺跡大手町 3・4 次調査出土遺物整理事業
和歌山県高野町	遺物整理報告書作成業務

善通寺市旧練兵場遺跡発掘調査は昨年度に実施したが、今年度は遺物整理と報告書作成を行う。

平成 18 年度に当研究所が調査を行い、諸般の事情で調査報告書が未刊行の状態であった丸亀市丸亀城跡 (大手町地区) 4 次調査出土資料整理は、3 年度計画の 2 年度目で遺構図版の作成と文章を執筆する。

和歌山県高野町の遺物整理報告書作成業務は、報告書作成までの一環として、今年度は高野山奥の院大名墓の実測調査を予定している。

記録資料調査修復室

千葉県佐倉市	国立歴史民俗博物館	所蔵資料の状態調査
--------	-----------	-----------

平成 18 年度より開始した国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を引き続き行ない、平成 26 年度は民俗資料 (新潟地方の民具) の状態調査を進める予定である。

保存科学研究室

出雲大社(島根県出雲市) 重要文化財文出雲大社境内遺跡出土品保存修理
に伴う計測

近つ飛鳥博物館(大阪府太子町) 大修羅の保存状態調査

文化財を後世に伝えるには、資料の劣化を防ぐために収蔵環境を適切に保つ必要がある。温湿度・生物被害・空気汚染・光環境等の劣化要因について計測し、資料の劣化状態を調査することによって保存環境の改善計画策定を行なっている。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査(4)

奈良市内における石造物の悉皆調査は1989年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これら石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査は未だ行われていない。

平成26年度も昨年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔について詳細な調査を行なう。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

愛知芸術文化センター(愛知県名古屋市) 木村定三コレクションの科学調査
東京文化財研究所(東京都台東区) 顔料分析

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析、琥珀の産地同定等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

伝世資料修復室

菅山寺(滋賀県長浜市) 国指定重要文化財「銅鐘」の保存処理

大分県佐伯市 重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具保存処理

沖縄県浦添市 ようどれ石厨子の保存処理

岩手県陸前高田市 登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」保存修復業務

菅山寺は、国指定重要文化財「銅鐘」を山中から引き取り保存処理を行う。「銅鐘」は大正15年に指定されたもので「建治三年五月八日所鑄」の銘が有る。現在発生している錆を除去、安定化させ樹脂塗膜による防錆を行い、展示支持台を作製する。

重要文化財『蒲江の漁撈用具』保存処理事業が平成26年度で移動可能な資料の保存処理は完了する予定である。次年度は中型木造漁船の修復計画を立てていく。

浦添城(グスク)の北側崖下にある琉球王国初期の王陵の石室にあった石厨子の石材強化を中心とした作業を行う予定である。

東日本大震災により被災した登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」の保存処理を平成25年度に続き行う予定である。

記録資料調査修復室

名古屋大学（愛知県名古屋市）	古文書の修復
大阪大学（大阪府豊中市）	適塾関係資料の修復
島田市立博物館（静岡県島田市）	古文書の修復
清水建設株式会社（東京都中央区）	所蔵資料の修復

文書・絵図類の修復事業は漉嵌法^{すきばめほう}を中心に継続して進めており、名古屋大学、島田市立博物館などの修復を実施する予定である。大阪大学は適塾資料の修復を予定している。また継続して所蔵資料のメンテナンスを進めている清水建設株式会社の修復も引き続き着手する予定である（儀式道具などが未着手）。

木器保存研究室

出雲大社（島根県出雲市）	重文出雲大社境内遺跡 ^{けいだい} 出土品の保存処理
滋賀県東近江市	重要文化財雪野山古墳出土漆製品の保存修理
愛知県清須市	清州城下町遺跡出土柿 ^{こけらきょう} 経の保存処理
長崎県松浦市	鷹島 ^{たかしま} 海底遺跡出土矢束の保存処理
岩手県奥州市	胆沢城 ^{いさわじょう} 出土木製品の保存処理

平成 23 年度から 5 か年事業で出雲大社所蔵の重要文化財出雲境内遺跡^{けいだい}出土の心御柱 3 本（鎌倉時代）他の保存処理を行っている。平成 26 年度は P E G 100% まで P E G 濃度を徐々に上昇させる予定である。

平成 26 年度から 3 ヶ年かけて東近江市雪野山古墳（古墳時代）出土の靱^{ゆき}や堅櫛^{かたしぼ}などの漆製品の修理を行なう予定である。

他に、清州城下町遺跡（室町時代）から出土した柿^{こけらきょう}経や鷹島^{たかしま}海底遺跡（鎌倉時代弘安の役（1281 年）の際に、元軍の船団が暴風雨により沈没した地点）から出土した矢束^{いさわじょう}（平安時代）から出土した木製品などの保存処理を実施する予定である。

金属器保存研究室

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝神庭荒神谷 ^{かみかた} 遺跡出土青銅製品の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理
兵庫県姫路市	重要文化財宮山古墳出土金属製品の保存修理
広島県立歴史博物館（広島県福山市）	重要文化財広島県草戸千軒町 ^{くさどせんげんまち} 遺跡出土品保存修理
文化庁（橿原考古学研究所附属博物館保管）	国宝藤ノ木古墳出土青銅鏡の保存修理

国宝の保存修理として平成 22 年度から継続して平成 26 年度も、島根県神庭荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の修理を行う。

重要文化財では、平成 23 年度から 7 か年で島根県・出雲大社境内遺跡出土品（鉄斧、釘他）の保存修理を行っており、平成 26 年度は金属器の保管箱の作製を行う。また平成 25 年度から福島県会津若松市・会津大塚山古墳（古墳時代前期）出土品の保存修理を行っており、平成 26 年度も引き続き作業を行う。

他に兵庫県姫路市・宮山古墳（古墳時代中期）出土金属製品の保管箱作製、広島県福山市・草戸千軒町遺跡（中世）出土品の保存修理を行う予定である。

その他、主要な事業として平成 25 年度からの継続事業である奈良国立博物館所蔵・二塚古墳（古墳時代後期）出土鉄製品の保存処理や、鹿児島県・立小野堀遺跡（古墳時代中期）出土鉄器の保存処理を行う。立小野堀遺跡については分析や実測図作成などもあわせて実施する予定である。

土器修復室

文化庁（九州歴史資料館保管） 重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土品
保存修理

山形県（公財）山形県埋蔵文化財センター保管
重要文化財水木田遺跡出土品の保存修理

兵庫県姫路市 重要文化財宮山古墳出土土器の保存修理

国の指定文化財の修理としては、平成 23 年度から 5 か年計画で、重要文化財福岡県・栗田遺跡祭祀遺構（弥生時代）出土品（甕棺）の保存修理を行っており、平成 26 年度からは 5 か年計画で重要文化財山形県・水木田遺跡（縄文時代）出土品の保存修理の修理を予定している。他に兵庫県姫路市・宮山古墳（古墳時代中期）出土の須恵器・土師器・埴輪の修理を予定している。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成 26 年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施している。その他の事業として、平成 25 年度から 2 か年計画で国宝東大寺金堂鎮壇具の金鈿荘大刀の復元模造品作成事業を実施している。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

企画展の開催

『元興寺の聖徳太子信仰展』 ※(宗)元興寺と共催

用明天皇の第二皇子で厩戸豊聡耳皇子とされる聖徳太子が 574 年に誕生してから 1440 年となる。元興寺の前身である法興寺（飛鳥寺）は、588 年に太子の叔父にあたる蘇我馬子により建立発願された。

平安時代に阿弥陀浄土信仰が盛んになると聖徳太子は「和国の教主・極楽往生の最初」、すなわち日本仏教の祖師にひとりとして厚く信仰されるようになり、元興寺も太子建立四十六院のひとつに数えられ、以来、元興寺極楽坊（堂）の草創も聖徳太子とされるようになった。鎌倉時代には聖徳太子十六歳孝養像（国指定重文）と南無仏太子像（県指定文化財）が造立されて、1394 年には境内に太子堂（殿）も新造されるが、本年はその落慶から 660 年を数える。

残念ながら太子堂は明治に廃されたが、本展は現存する二体の太子像を中心に元興寺の聖徳太子信仰にまつわる什宝・資料を展示する。

開催期間 平成 26 年 4 月 26 日（土）～ 6 月 1 日（日）

開催場所 元興寺総合収蔵庫 担当：人文科学研究室

秋季特別展の開催

(宗)元興寺と共催で研究部考古学研究室が担当し開催する。

開催期間 平成 26 年 10 月下旬～11 月上旬 ※正倉院展と同時期を予定

開催場所 元興寺総合収蔵庫

平成 26 年度『発掘された日本列島 2014』展（文化庁受託事業）

文化庁（記念物課）と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展は、平成 20 年度から記念物課独自で企画競争を前提とする公募形式で開催されていたが、平成 23 年度からは、記念物課と開催各館が覚書を交わし委員会方式で審議して決定する企画競争による公募形式に変更となった。

研究部として平成 25 年度に引き続き、企画提案書を作成のうえ本展に応募する。

業務内容は従来と同じで、本展に関わる出陳物の集荷・納品に係る輸送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理のほか、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

開催館は平成 23 年度以降 5 館で定着し、平成 26 年度も 5 館での開催予定である。

なお本展は、「発掘された日本列島展」が 20 周年目を迎えるため、従来は中核展示・テーマ展示の二部構成であったが、「日本発掘展」が記念企画として加わることにより、三部構成となる。

日本発掘展には、これまでの列島展に展示後、重要文化財等に指定された資料や未指定であるが日本を代表する遺跡から出土した遺物が出陳され、日本各地の優品が展示される予定である。

中核展示には旧石器から近世までの 9 遺跡の資料が、テーマ展示は「(仮称)復興のための文化力ー東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護ー」と題し震災復興に先立ち発掘調査された 7 遺跡の資料が展示される。

平成 26 年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

全国埋蔵文化財法人連絡協議会が主催する研修会を本年度開催担当法人として実施する。この研修会は、埋蔵文化財等の文化財保護事業について研修し、会員相互の資質の向上と加盟法人の事業の促進に資することを目的として、年 1 回全国の加盟法人が持ち回りで開催している。当研究所の開催担当は平成 3 年以来となる。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告 2014』（1,300 冊）刊行予定

平成 23 年度からは（公財）畠山文化財団の助成金を受けて刊行している。

平成 26 年度については現在申請中である。

7. 体験活動

研究、調査成果を還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。